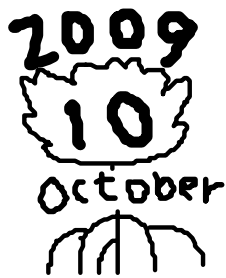


わたしたちは「自然と環境の保全は足元から！」をモットーとしています。



おいしーOECー ニュースレター



日中の日差しがまだ強いですが、九月の大型連休が終わりました。皆様、いかがお過ごしでしょうか。小中学校では、あちらこちらで運動会の季節となつてきましたね。年末に向けて様々な行事も多くなつてくることと思います。

前号で、おきなわ環境クラブは、この四月で活動十年目を迎えたことをお伝えしました。今年、改めて地域に密着した活動とは何か、自問自答を続けながら、試行錯誤の毎日です。

今号は、その取り組みの経過など、半年間の活動を紹介します。また、その様子は私たちのホームページにもご紹介していますので、是非チェックしてみてくださいね！



変化した自然…

昔、島尻はヤンバルだった

緑と青そして白と赤。昔むかしの鳥たちが見たはずであるこれらの色の織りなす景色模様は、かつての島尻地域である。緑は、豊かに茂る木々の色、青は光り輝く海、白は台地をつくる琉球石灰岩、赤は大陸から飛来した土の色である。今、緑はまばらとなり、青は色を変えつつある。「万物は流転する」の言葉どおりである。

八重瀬町の港川フィッシュヤード遺跡は、今からおよそ2万年ほど前の旧石器時代の人骨化石が出土したことで広く知られている。化石は世界の人類学者から注目され、沖縄県の誇るべき財産である。そこからは人骨以外に、絶滅種のシカ類やオオヤマリクガメをはじめ、イノシシ、ケナガネズミ、トゲネズミ、ヤンバルクイナ、イシカワガエルなどの化石が発掘された。これらの動物たちは、現在はいずれも島尻には生息せず、ヤンバルでは見ることができ

る。南城市玉城のヤンバル山は、ドングリの実をつけたアマミ

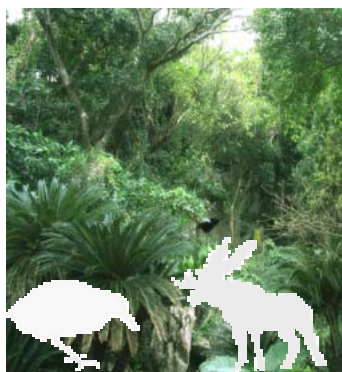
アラガシが残るなど地質と植生からみれば本部半島とそっくりである。つまり島尻は、かつてヤンバル的な様相をしていたのだ。ヤンバル山は、そのころの最後の姿である。

人は自らの生活を豊かでありよくするために自然と闘い、そして打ち勝ってきた。島尻の台地に織りなす色の変化は、そのことを物語っている。つまり自然を破壊したのは我々人間であるということ。だが自然破壊は、すべて悪というわけではなく、生活に関わる発見と技術の発展であったことは確かである。

我が「おきなわ環境クラブ」は、まず水辺の自然を取り戻そうと、自然保護とその回復をめざした小さな活動を続けていく。

おきなわ環境クラブ

会長 大城 逸朗



OECからのお知らせ

■国場川河口域サガリバナ手入れ
OECは国場川(河口)北岸

河川敷で、植樹されたサガリバナの手入れをしています。第二回からアジエンダム県民会議環境保全ボランティア活動等支援事業の助成を受けています。

この活動は、サガリバナを元気にするのが目的で、下草刈り作業や肥料を与えています。また成長の様子を記録しています。身近な水辺環境や自然について触れ合う場となり、地域の現状や魅力を再発見してもらえ、ことを目標としています。

【日程】

- ・ 第五回 十一月十四日(土)
- ・ 第六回 一月十六日(土)
- ・ 第七回 三月十三日(土)

【時間】午前10時～12時
※お手入れ用具はOECで用意致します。皆様の参加をお待ちしております。



■宮古支部研究員の退職と事務所の移転
去る八月二一日をもって宮古支部の研究員が退職し、事務所を平良字松原へ移転しました。宮古支部の活動は、新しい拠点を中心に、宮古島の方々のご協力のもと、今後とも活動を継続していきます。なお、宮古支部の電話・FAXはこれまでと同番号で、当分の間、那覇市国場事務所へ転送されます。

国場集落 親子で作ろう！

「アクアプランター（鉢植え）工作」



「サガリバナを集落内に増やし、昔の水辺環境を取り戻そう！」と九月一九日（土）、国場自治会の協力のもと、主に国場集落在住の方を対象にワークショップを開催しました。

この日は、集落内を散策しながら、国場集落の「昔と今」の様子や水環境についてガイドや家主からお話を聞き、水辺の植物を観察しました。路地や民家のサガリバナ種子を採取した後は、ペットボトル（二リットル）を再利用して作る二重構造の「アクアプランター」工作を大人も子供も一緒に楽しみました。工作後は、土と種子を入れて完成。来年の春に芽をつける日を心待ちに、お家で大事に育ててもらいます。

参加者から「勉強になった、楽しかった」「また来年もやろう」と嬉しい言葉を頂きました。中には、「ずっと集落に住んでいたが、初めてサガリバナの種子を見た」と感激された方もいました。皆さん、普段何気なく通っていた家路や通学路で、思いがけない再発見が出来たようです。きつと、myプランターで愛着を持って育てる、植物との触れ合いこそが水辺環境を考える良い「きっかけ」となることでしょうか。

川満マングローブ観察会

ビンゴゲームで楽しく観察しよう！

去る八月三十日（日）宮古島市下地川満マングローブにて、観察会が開催されました。夏休み最後の日曜日とあって八家族二五名が参加しました。

今回はまず、集合時にマングローブビンゴを配布し、ルール説明と注意点を話して木道へと進みました。参加者は、誰かが何か見つけるとビンゴの写真と照らし合わせて、ガイドの説明を聞き合いながらみんなで観察をしました。この時期は、ヤエヤマヒルギの胎生種子が夏のピークを過ぎて残り少なくなっていますが、ガイドのヒントでみんな一斉にそれを見つけて、歓声をあげていました。

観察を終えると東屋に戻り、ワークシートに「今日の発見」としてカニやマングローブの絵を描きました。もつとも印象に残ったのは、白いハサミを振り回しているオキナワハクセンシオマネキで、多くの子供たちがその様子を描いていました。

今回の観察会は、ビンゴゲームを用いたことで参加者全員がじっくり観察しようとしていました。特に子供たちからは、「知らないことが分かって良かった」「楽しかった」といった感想が多く聞かれました。



沖縄県地域環境センター

第七六回 環境啓発活動 野外観察会

「やんばるの川へ水生生物調査に行こう」



川の水生生物調査で、名護市の源河川に行きました。源河川は、地元の団体が中心になり、以前、生息していたリュウキュウアユの復活を試みている川です。

川岸で生き物の見つけ方や採集方法を簡単に説明して調査を開始すると、子供たちはエビやおたまじやくしなどを捕まえて楽しんでおり、大人も真剣になって一緒に探していました。

一時間ほど生物を採集した後、見つけた生き物の集計を行いました。きれいな水にしか生息しない、ウズムシ、カワゲラ、マルヒラタドROMシなどが見つかっており、判定結果は「水質階級Ⅰ：きれいな水」となりました。

調査に夢中になり、お昼休憩の後、川でたくさん遊ぶことができずでしたが、「とても良い体験だった」「川が汚いと川で遊べないから自然を大切にしないとイケないね」と子どもが感じてくれた」との感想をいただき、身近な環境へも目を向ける機会になりました。

JICA 集団研修

熱帯・亜熱帯地域エコツーリズム企画運営コース

過去五年間の人材育成普及型の研修を踏まえて、新たに三年間の課題解決促進型の研修としてスタートしました。

エコツーリズムの企画や運営に従事する行政やNGOの職員を対象に、アジアや太平洋の島国、中南米から八カ国の研修員を迎え、沖縄県内各地をはじめ、関東や関西で研修を実施しました。今回の研修では、フィールドワークを充実させました。

やんばる三村研修では、関係者の協力のもと、訪問前に各村の基礎情報や調査研究事業の資料を読み込み、現地で収集すべき情報の整理をしました。訪問後は、フィールドワークで得られた新たな情報や体験、各団体の生の声をまとめ、外部者の視点を活かして地域へのフィールドバックを行いました。これらの実習で、研修員の国が抱える課題整理や地域へのアプローチに必要なステップを学ぶことができました。

また研修の成果を活かし、各研修員はエコツーリズム計画、人材育成計画、組織の課題解決に向けた行動計画を作成しました。

帰国後、地域の関係者でこれらの計画を共有し更なる改善を行った後、研修員の組織が計画の推進あるいは地域の支援機関となり、コミュニティベースのエコツーリズムを展開する予定です。



最近の活動一覧（2009年4月～9月）

● 助成事業

かいぎん環境貢献基金活動

- 5/10 宮古島マングローブ植樹ツアー 参加：静岡県掛川グリーンロータリークラブ
場所：宮古島 与那覇湾 サニツ浜東海岸 人数：20名
- 5/16 第10回「添道サガリバナワークショップ」 場所：宮古島市添道 人数：15名
- 7/11 第11回「添道サガリバナワークショップ」 場所：宮古島市添道 人数：13名
- 8/30 川満マングローブ観察会～ビンゴゲームで楽しく観察しよう！～ 場所：宮古島市下地川満マングローブ 人数：25名
- 9/27 川満マングローブ観察会～ビンゴゲームで楽しく観察しよう！～ 場所：宮古島市下地川満マングローブ 人数：10名

アジェンダ 21 県民会議 環境保全ボランティア活動等支援事業（おカバ`-ル・アサビ`-ル寄付金活用）

- 7/10 第3回「漫湖公園 サガリバナお手入れワークショップ」 場所：国場川右岸河川敷 人数：5名
- 9/12 第4回「漫湖公園 サガリバナお手入れワークショップ」 場所：国場川右岸河川敷 人数：14名

● 受託事業

沖縄県地域環境センター（沖縄県文化環境部環境政策課）

環境啓発活動 セミナー・野外観察会・出前講座・環境団体活動支援

- 5/15 第75回 出前講座「ストップ地球温暖化の取り組み」 講師：高平兼司（沖縄県地球温暖化防止活動推進センター）
受講生：学校法人 KBC 学園インターナショナルデザインアカデミー高等課程 1 学年生徒 人数：18名
- 8/22 第76回 野外観察会「やんばるの川へ水生生物調査に行こう」 講師：保村亨（沖縄エコツアーガイド）
場所：名護市源河川 人数：25名
- 8/25 第77回 こどもエコクラブ活動支援「瀬長島の自然観察」 講師：保村亨（沖縄エコツアーガイド）
場所：豊見城市瀬長島 受講生：はなぞの児童エコクラブ（小学校低学年） 人数：40名
- 8/24-28 第78回 沖縄県環境啓発パネル展 場所：県庁1階ロビー 出展数：7団体

独立行政法人国際協力機構（JICA）沖縄国際センター

- 4/13-7/3 集団研修 第1回 熱帯・亜熱帯地域におけるエコツーリズム企画・運営 場所：主に沖縄県内各地 人数：9名
- 8/10-9/25 地域別研修 第1回 持続可能な観光開発（太平洋地域） 場所：沖縄県内各地 人数：10名

● 自主事業、各協議会・検討委員会の参加等

- 4/7 国場川北岸河川敷 サガリバナ現状調査（B地区） 場所：漫湖公園右岸ジョギングロード沿い
- 5/9 第2回「漫湖公園 サガリバナお手入れワークショップ」 場所：国場川右岸河川敷 人数：5名
- 5/26 国場川北岸河川敷 サガリバナ現状調査（A地区） 場所：漫湖公園右岸ジョギングロード沿い
- 5/31 平成21年度 第1回おきなわ環境クラブ理事会 場所：国場事務所
- 7/4 国場集落「夜のサガリバナ鑑賞会」 場所：那覇市国場集落 大嶺家のお庭 人数：15名
- 7/6-10 県庁構内「夜のサガリバナ鑑賞会」 場所：沖縄県庁構内 ※県庁本庁舎と沖縄県警庁舎の間 人数：540名
- 7/10 水辺のマングローブ生態系の観察とサキシマスオウノキ・サガリバナの植樹
参加：株式会社ナック 場所：那覇市国場川河口域 南岸ジョギングロード沿い 人数：94名
- 7/27 平成21年度 第2回おきなわ環境クラブ理事会 場所：国場事務所
- 8/7 日本環境教育学会沖縄大会実行委員会参加 場所：琉球大学
- 8/14 沖縄県持続可能な観光地づくり支援事業 第1回ワーキンググループ会議出席 場所：宮古島市
- 8/21 平成21年度 第3回おきなわ環境クラブ理事会 場所：国場事務所
- 9/2 日本環境教育学会沖縄大会（エクスカーション班）会合出席 場所：琉球大学
- 9/4 沖縄県持続可能な観光地づくり支援事業 第2回ワーキンググループ会議出席 場所：宮古島市
- 9/13 「ラムサール条約登録湿地・漫湖」の観察と河川敷におけるサガリバナ植樹
参加：JA 全農ミートフーズ株式会社 場所：那覇市国場川河口 北岸河川敷 人数：15名
- 9/14 平成21年度 第4回おきなわ環境クラブ理事会 場所：国場事務所
- 9/19 「親子で作ろう！アクアプランター工作ワークショップ」 場所：那覇市国場集落 人数：19名

二十代の頃おばによく連れていつてもらい、それから深い関わりがある斎場御嶽。丁度その頃は、世界遺産登録へ向けて動き出そうとしている時期でした。行く度に少しずつ変化していく環境。日光を入れる為か、木の伐採や駐車場の整備工事。遺産登録の為とはいえ、大好きなスポットが変わっていく姿に、自分の中で違和感や寂しさを感ぜずにはいられませんでした。その時から、私の中で目に見える自然環境と、目には見えない本当の真実(歴史背景や信仰心、沖縄の現状)の両面を「知りたい、見極めたい」と思うようになったのをきっかけに、おきなわ環境クラブの「エコツアーガイド養成講座」を受けました。

斎場御嶽は、昔はもつと木がうつそうとしていて、豊かな霊域がありました。今は整備がされ、雰囲気はだいぶ変わりましたが、それでも昔と変わらないパワーやエネルギーで今も私達を温かく迎えてくれることに感極まる思いです。その目には見えない沖縄の信仰心、そこに生息する動植物や鳥のさえずりなど、その時の空間の心地よさも一緒に持ち帰ってもらえるような心の「エコ」ツアーを案内していきたいと思っています。



これから沖縄の大事な「ちむぐくろ」を継承していきたいように学んでいきたいです。

沖縄エコツアーガイド三期生

西銘史江

水辺の植物(漂着種子)の紹介

- 和名：モダマ(藻玉)
- 学名：Entada phaseoloides Merr.
- 科名：マメ科
- 原産地：東南アジア
- 分布：屋久島、沖縄、台湾、中国南部、西印度、アフリカ等の熱帯地
- 方言名：ムダマ(奄美大島)

モダマは、つる性のマメ科常緑植物で、日本では屋久島から琉球にかけて分布。大きなマメのさやは木質で長さ一丈、幅十センチもあり、さやの中には直径五センチ程度の種子が九〜十三個入っている。波打ち際に海藻と混じって漂着する「モダマ」の種子を、海藻の玉に見立て「藻玉」と呼ばれるようになったという。近年、海岸や河口域の開発によって、モダマの自生地が破壊されている。そのため、これまで生育していたモダマの個体数が減少してしまっただけでなく、海流にのってたどり着いたモダマの種子が発芽できる場所も減少してきている。環境省レッドデータブック絶滅危惧ⅡA類(CR)：ごく近い将来に絶滅する危険性が極めて高い種に掲載される。

種子は平たく光沢がある



細長い穂状花序

果実は木質で堅い大形の平たい莢

今後の主な予定

- 助成事業**
- ・かいぎん環境貢献基金活動
 - 「地図を片手にマングローブの生き物を探そう！」
 - ・一〇月三十一(土) 十時〜十二時
 - ・十一月十四(土) 十時〜十二時
 - ・十二月十九(土) 十時〜十二時
 - 場所：宮古島市下地川満マングローブ

- 受託事業**
- ・沖縄県地域環境センター
 - ・一〇月十一(日)
 - ・一〇月三十一(土)
 - 御神崎・屋良部岳の自然観察
 - 斎場御嶽の森散策
 - ※詳しくはセンターへお問い合わせ下さい。
 - (〇九八) 八六六・二六三八

- ・JICA 沖縄 課題別研修
 - ・多様化による沿岸水産資源の持続性確保
 - ・持続可能な観光開発(カリコム諸国)
- 行事参加・ブース出展**
- ・国際協力・交流フェスティバル 2009
 - ・平成二十一年十一月十五日(日)
 - 場所：JICA 沖縄国際センター
 - ・おきなわ環境クラブ「いとまん
 - ・平成二十一年十一月二十九日(日)
 - 場所：道の駅「いとまん」
 - ・第一五回 国場川水あしび
 - ・平成二十二年十二月十二日(土)
 - 場所：漫湖水鳥・湿地センター

その他、OEC主催のワークショップを計画。随時、ホームページや新聞等でお知らせしますので是非ご参加下さい。

自然と環境の保全は足元から！

おきなわ環境クラブ(OEC)は、水辺環境の環境保全活動をきっかけに、地域の自然保護や環境保全の気づきが広がることを目的とした、子どもと大人のNPO/NGO団体です。

沖縄本島南部と宮古島を主なフィールドに、水辺植生や希少種保護・回復の実践、環境教育プログラムやエコツアープログラムの提供、教材開発、環境情報の提供、エコツアーガイド養成やJICA研修の人材育成など、地域や学校・企業・行政機関と一緒に事業活動を展開しています。

特定非営利活動法人 おきなわ環境クラブ

<http://www.npo-oec.com/>

那覇市国場事務所

〒902-0075 沖縄県那覇市国場 370-107

TEL:098-833-9493 FAX:098-833-9473

e-mail:kokuba@npo-oec.com

宮古支部久松事務所

〒906-0015 沖縄県宮古島市平良字松原 129

TEL&FAX: 0980-73-5307

